

ギアリンクス便り 第12号 2006年4月発行

〒505-0051 岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣 343

ホームページ www.gialinks.jp

代表取締役 中田智洋 (株)サラダコスモ

取締役 大西 隆 (有)セントラルローズ

取締役 桜井芳明 桜井食品(株)

取締役 渡辺好弘 チュウノー食品(株)

取締役 加藤孝義 (株)岐孝園

監査役 渡辺基成 渡辺会計事務所

資本金を増資しました

去る3月14日付で資本金を9,990万円に増資しました。今回の増資で487名の株主による会社となりました。今回の増資は運転資金確保のために役員が中心となって出資いたしましたので、ここにご報告申し上げます。なお、今後は増資をする予定が無い事をあわせてご報告申し上げます。

ツアー参加者の感想文

今回のお便りは去る1月31日から2月11日までの現地農場見学ツアーにご参加いただきました方々の感想文をお伝えします。現地の様子をお感じいただき、次回ツアーへのご参加をお待ちしております。



当社パラデー口農場入り口にて

農場見学ツアーに参加して

参加者 原口展之

1月31日セントレア空港に集合して、成田空港で東京地区より参加の方々と合流して現地に向かいました。今回初めての南廻りで

クアラルンプールで乗り換え、南アフリカのヨハネスブルグ、ケープタウンを經由して、時差の計算が不明になる感じでブエノスアイレスに到着しました。総勢36名と引率の中田社長、大西社長、お二人のご苦勞は大変なことであったと、感謝して居ります。

しかし、参加者はそれぞれ異なった職業をお持ちで、何かを行う推進力、達成志向とプラスマインドの持ち主ばかりで、また前岐阜県知事の梶原様ご夫妻の参加もあり、長い旅行期間も退屈せず疲労感も無く、充実感のある12日間であったことは、やはり引率者のお力の賜物とおもいます。



ブエノスアイレス市内のフロリダ通り

さて、ブエノスの感想ですが、アルゼンチン全盛時代の街の面影が残っており、石作りの建物等、奥深いものを感じました。しかし、貧困の人々も見受けられ日本の将来がこの様になってはいけないと思いました。

ブエノスのフロリダ街でのショッピング、私が聞いていた南米での旅行者に対しての危険な出迎えや大きな事故もなく無事日本に帰れたことは良かったと思います。

バスでの旅、バラデー口のギアリンクス農場を見学し、その広大さ、管理の大変さ、グスタボ青木さんや信頼出来る方に管理を依頼する大切さを感じ、物事に対して真面目、真剣に対応する姿勢が必要であることも学びました。



農場で管理人の石川さん・

現地マネージャーの青木さんの説明を聞く

夜行バスでのホテルの海、中田、大西両社長の心配をよそにホテルが見え、満天の夜空に輝く星、天と地で我々を歓迎してくれたものと思います。長距離バスも最高仕様のバスを用意され、これも主催者のきめ細かいお心遣いと思います。

車内での皆さんのトーク、これも話すことの勉強、聞くことの大切さを感じました。アンデス農場では、見渡す限りの原野を見て、これからこの土地をどのように活用するのかを考えることは大変な事と思いますし、現地入植の方々のご苦労、しかし、頑張っている姿を拝見するにつけ、前進あるのみと思います。自然との闘い、融和、このバランスを如何に取っていくか、言葉では書けますが実践となりますと容易なことではないと思います。岐阜県の農業専門家、加藤、山本両氏の調査結果に期待が待たれます。

ギアリンクス 1,245ha の農地の利用は岐阜県民だけでなく、日本国民の役に立つ、お手本となって欲しいと思います。梶原前知事もおっしゃっていましたが、何がなんでも成功させなければならないと思います。

サンラファエルから空路ブエノスに戻り、アルゼンチンタンゴショーを、特にヨーコフルセさんのすばらしいタンゴを見て海外で活躍されることの大変さ、でも本当に感動させて頂きました。



古瀬さんのタンゴを眼前で鑑賞

ブエノスからイグアスに移動し、初めて見るイグアスの滝の壮大さ、初めて体験する滝の洗礼、水浸しになってからのホテルまでの道のり、水を含んだ衣服の重さ、中田さんのおばあちゃん達の元気さ、私達もまだまだ頑張らなくてはとつくづく思いました。



ボートに乗って滝を下から見た後、ボートは滝をくぐりました。

今回の訪問団に参加した私の最大の思い入れはイグアス農協訪問で、私共に研修生として、3年前に来日した、堤剛君に再会する事でした。彼の来日は物事が上手くいく手本のようなもので、当時のイグアス農協の組合長、久保田様が来日中、名古屋で講演され、私が同じ大学がという事で布袋食糧(株)福田社長に

同行し、講演後、面談し現地農協が製粉工場を所有しているが製粉技術者が不在で、若い人を技術研修で預かって欲しいとの事で JICA の研修生として堤君が1年間セントラル製粉(株)にて研修をしました。その彼と再会でき、農協の製粉工場を見学し、改めて若い人の受け入れを進める必要性を感じました。農協婦人部の皆さんが心尽くしの和食でのおもてなし、現在の日本では忘れられた味、子供たちの踊り、長旅の私達の心を慰めてくれるに充分でした。幼稚園児募集の日本語でのポスターを拝見し嬉しくなる思いでした。

帰路、クアラルンプールまで桜井社長にお出迎え頂き、12日間の有意義で楽しい旅が出来たことは、一重に(株)ギアリンクスの役員の方々、参加者皆様の気持ちが1つに成った賜ものと思います。感謝、感謝

本当に有難う御座いました。

アルゼンチンの降雨で

参加者 佐藤 純子

「大豆の国際価格が急落 - アルゼンチンの降雨で」(日経 2006-2-25 付)今までだったら気付きをもしない相場欄の記事が目止まった。アルゼンチン - 降雨 - 大豆、この一行に様々な思いがよぎるのもギアリンクスの旅 2006 年に参加したからだ。

花の普及振興団体の仕事をしている関係でセントラルローズの大西社長と出会い、氏のセミナーを拝聴した。その際に氏のご自身のビジネス紹介に加えてギアリンクスの設立経緯、置かれている状況、それに賭ける情熱をお話くださった。ご本業のシステムの素晴らしさ、生産されるミニバラの見事さについては言うまでも無く参加者は感銘を受けたのだが、ギアリンクスの紹介には衝撃ともいえるインパクトがあった。

国が何かをしてくれるのを待つのではなく、自分たちの食糧の為に、自分たちが出来る事をしよう。動き始めよう！という志を立て、それに賛同する人々がいて実際に海外、それ

も日本から遠い遠いアルゼンチンで農場を取得し、生産を始めてしまったとは、なんと



農場入り口で大豆の実況検分

いう行動力、なんという情熱だろう。その時の聴衆のほとんどが「ギアリンクスの農場へ行きたい」と口にした。今回私が参加する事を伝えると羨望の眼差しを向ける人も多かった。

絵葉書で見るとような青い空と緑の広がるバラデー口農場、広大で「あーやっぱりアルゼンチンの農場へ来た」との感慨を深くした。翌日、ひたすら 1000Km - バスで走りたどり着いたアンデス農場。数日前までは猛暑だったというが、到着した朝は小雨まじりの曇り空、寂しい、の一言がつい出てしまうような風景であった。農場への道のわだちには白っぽくすじすじが残り、土から染み出る塩分だと説明を受けた。風が強いのだろう、立ち木で高いものが人工的に植樹したと思われる農場付近にしか見当たらない。自然が厳しいのではと素人にも想像に難くないこの土地で



アンデス農場の隣人とツアーの人々

50年近く頑張って農業を続けている方々がいる。その方々の表情は澄み切っていて、我が身を振り返り思わず背筋を正したくなるようだった。

気持ちのいい旅でもあった。価値観も置かれている環境も年齢も異なる人々が12日間もハードスケジュールの中を、3食を共にし誰も文句、不平不満を口にしない。通常の団体旅行では考えられない驚きの清々しさであった。

移動時間や待ち時間が長いのも良かった。通常の生活ではお会い出来ない方々とお話する機会を持てた事、何物にも変え難い財産となった。ぞくぞくするほど楽しく、生きるとは、農業とは、人とは、経営とは、国とは、情熱とは、と思いを深くできた旅になった。メキシコでも南アフリカでも農場を見た。ギアリンクス農場も遠目にはそれらと変わらないが

自ら動きコミットする事の意味を知った今、私にとってギアリンクス農場の景色は全く異なる意味を持つようになった。

夢と感動が広がる旅

参加者 土岐八雄子

食べ物の安全や食糧危機の問題が語られるようになって久しくなります。岐阜県でも県民の食糧確保計画の実現に向けた事業が進められています。南米の肥沃な農地に大豆を生産し、岐阜県民の食糧を確保しようと創設された「ギアリンクス」は岐阜県民の命を繋ぐ食糧生産という公共性の高い使命感を持っての会社です。ギアリンクスの使命感に共感し、蛍の飛ぶアルゼンチンの農場での大豆生産を見てみたい。中でも蛍の大群との出会いを一番の楽しみに参加したギアリンクスの旅・・・内田新哉さんが描かれた『蛍の海』を満喫し大きな感動をプレゼントされた旅となりました。

ギアリンクスの旅の参加者は今回36名。アルゼンチンでの農業を提唱された、前岐阜県

知事梶原拓ご夫妻もご一緒くださり、食糧確保の意義を再確認した私です。日本から一番遠い国への長旅です。今回は、南廻りでクアラルンプール、ヨハネスブルグ、ケープタウン経由でブエノスアイレスへ。アフリカを空から、砂漠の中の整備された街並みや、農地を眺めると言う大きな付録がありました。南米のどこまでも続く平野と赤い川、スケールの大きさに驚くばかりです。

【バラデー口農場】

ブエノスアイレスから大陸横断バスに乗り、バラデー口農場に向かいます。地平線まで続



農場にて食糧問題の勉強会が開かれました

く大豆農場。他の農場には遺伝子組み換え大豆生産を示す看板が林立しています。私たち一行を迎えてくれたのは、ギアリンクスのバラデー口農場の看板と現地マネージャーの青木さん、農場管理をして下さる石川さん。南米でも、温暖化現象や2年続きの早魃(かんばつ)で大豆の生育が思わしくないようです。大豆は早魃にも負けず花をつけています。広大な農場管理に頭が下がります。ギアリンクスはオーガニック農業生産をアルゼンチン農業省に登録。登録農場ではギアリンクスが最大手とのこと。恵みの雨を願い、良い収穫を迎えられることを祈りながら農場を後にしました。今回は岐阜県農業技術課長加藤正氏、農業改良普及員の山本芳範氏が土壌調査やアンデス移住地で新たな農地開拓の為の植生調査に参加されました。調査報告に期待したいものです。

【蛍舞う草の海】

バラデー口農場を後にアンデス移住地に向かいます。南米は8時を過ぎても空に太陽があります。ガソリンスタンドで夕暮れを待ち、蛍情報を集めてくださるドライバーさん。蛍に出会えない年もあったとか。「蛍さん蛍さん飛んでね、私の旅の夢を叶えてね」の思いを乗せたバスが夕闇の中をゆっくり進みます。草むらにオレンジ色の光がぼつぼつと光り始めました。「ワー蛍」とバスの中は大歓声。バスを降り、しばし蛍を鑑賞。空を仰ぐと天の川が美しく輝いていました。蛍舞う農場で育った大豆で作られたギアリンクス豆腐の味は格別です。以前にもまして豆腐のファンになりました。オーガニック農業で地球・環境・食べる人にもやさしい農業の永続を願いながら、蛍の海との出会いを体験し、とっても幸せな気分です。グラシアス。

【アンデス移住地の農業】

日本から離れて4日目。アンデス移住地で農業経営をしておいでになる米（よね）さんがお嬢さんと町まで出迎えてくださいました。米さんのお母さんが結んでくださったおにぎりをたくさん差し入れてくださり、朝食は久しぶりの日本の味。おにぎりは塩加減も良く美味しく頂戴しました。一同感激、有難うございました。



アンデス移住地の隣人 米さん親子

アンデス移住地にはギアリンクスが JICA から購入した 600ha の未開墾土地があります。今回はこの土地で何を生産するか、どのよう

に農場を作るかなどの課題を持っての訪問です。参加者は一人2つ以上の智恵を出すことを社長から求められました。

アンデス移住地ではぶどう・桃・梨・りんご・すもも等が生産されワインの有名な町です。農業用水もアンデス山脈からの雪解け水が豊富な土地柄です。ちょうどワイン用のぶどうが収穫期を迎えており、米さんの農場のぶどうを食べさせていただきました。日本の甘い「ぶどう」よりも味のバランスが良く、さわやかな美味しさが病みつきになりそうです。ぶどうを口にする参加者の笑顔が印象的でした。



米さんのワイン用ブドウ畑にて

さて、「農場で何を」の智恵は、オリーブ、果樹生産と加工、薬草、蜂蜜飼養、にんにく、地下資源（鉱物）探査などバスの中は盛り上がりを見せました。昼食はアンデス移住地に住んでいる日系の皆様と交流会です。移住当時のご苦労や病気を乗り越えられ、たくましく生きておられる姿や、みそ作りやしょうゆ作りなど日本の食文化を異国の地で大切にし



広大な未開墾地アンデス農場を前にして

ておいでになるお話を聞き、目頭が熱くなりました。お昼に頂いたワインの工場を見学し試飲をさせていただき、お土産のワインを調達しアンデス移住地の町を後にしました。米さん、お世話になりました。アンデス移住地の皆様もどうぞお元気でご活躍ください。

梶原先生からギアリンクス農場見学ツアーの参加者同窓会の提案がありました。ツアーでの感動と体験を今後のギアリンクスの発展に力を出していこうとの呼びかけです。今回は18年4月9日(日)中津川市で開催されます。みんなで楽しい会にしましょう。

【パラグアイ「イグアス」農協と農業】

ギアリンクスと食糧供給協定を結んでいるイグアス農協への訪問です。日系の方が農業で一番成功され、農協が地域の発展に大きな役割を果たしています。イグアス農協で生産される大豆は18万トン、日本の大豆生産に匹敵する量です。とうもろこしと大豆の輪作で不耕起栽培発祥の地として成功を収めておられます。小麦、とうもろこし、大豆の一大穀倉地帯の農協事業には目を見張るものがありました。収穫期を迎えた大豆は地平線まで続き大きなコンバインが土ぼこりをあげながら収穫しています。恒例となった交流会は農協女性部の方々の日本料理でのおもてなし、ちらし寿司、煮物、冷奴、漬物、しいたけの含め煮、おにぎり等々日本の味がしっかり伝えられ育てられていることに脱帽です。ご馳走様でした。



パラグアイでは早生種大豆の収穫が始まりました
人生記録「大地に刻む・いのちを刻む」、女

性史「あかつちとともに」は入植40年、世代交代が進む中で、「汗と泥にまみれ原始林の開拓を成し遂げたことを書き残し、何も知らない子や孫たち、また実態を知らない母国の郷里の人々にも知らせる」という社会的に意義のある聞き書きを主とした本です。帰りの機中で読み、イグアスの人々が苦勞を積み重ねての成功。苦勞を微塵も出さない明るさとたくましさなど、人として生きていく道なりとその姿勢を学びました。社会科の副読本にしたい内容です。

【大きなこぼれ話】

その

ケチャップ泥棒の洗礼を受けました。場所は世界3大劇場の一つコロソ劇場の前。普通の観光客を装った3人組。一人が灰色の匂いの強い液体を私たちの衣服にかけます。2人が親切そうにハンカチや水を持って近づき、鞆に手を掛けます。彼らの目標達成の為にチームワークの良さには驚きです。大きな声を張り上げ難を逃れました。注意・注意。家族のホームレスがいっぱい。治安が悪いので危機管理が必要です。

その

イグアスの滝見学。朝6時半にホテルを出て、ブラジル側からイグアスの滝を見学。滝の中腹から滝上を眺めると、朝日が昇り始めています。日の出を待ち、大きな太陽に向かって中田社長の音頭で万歳三唱。マイナスイオンをいっぱい浴びながら無事の帰国と健康を祈ったものです。



ボートに乗って滝を下から見ます



この後、滝に突入しました

アルゼンチン側ではサファリーボートでの滝壺めぐり。流れ落ちる滝の水を何度も何度も浴び大きな歓声が滝の爆風と一緒に響き渡ります。水も滴る美男美女ご一行様。楽しかった思い出と共にホテルへ帰る坂道の辛かったこと。お疲れ様でした。

その

タンゴ、サンバ、バンドネオン、「コンドルは飛んで行く」に代表されるコンファローレなど南米の文化を存分に楽しみました。フルセ・ヨーコさんはタンゴと生活が結びついた地区のサロン（公民館）で特別公演を開いて下さいました。地元のお母さんやお兄ちゃんも一緒になって、私たちをもてなして下さいました。何処のショーよりも親しみがあり、文化の香りのする公演でした。拍手が鳴り止まらない感動のタンゴショーです。タンゴは芸術から文化へ昇華し生活の一部になっていることを実感。働く、人生を楽しむというメ



タンゴショーレストランにて

リハリのある生活感を羨ましく思いました。

その

ミニ講演会がバスの中、空港の待合室、レストラン等で開催されました。色々な分野で活躍される社長さんのお話は、苦労話、社員教育、事業展開、ご縁の大切さなどなど意義のあるお話と夢をお聞きすることが出来ました。何事も100人力の拍手でお迎えし、礼を尽くすということをお教えられたミニ講演会です。すばらしい生き方を持った方とのご縁を頂きました。これからの人生の大事な宝にしたいと思っています。



バスの中ではミニ講演会が開かれました

長旅をお世話くださった、ギアリンクスの役員の皆様にお礼申し上げます。健康と多少の余裕が出来れば、また参加したいと思います。魅力と人との出会い、感動の旅を有難うございました。



ブラジル側イグアスの滝前のホテルにて

今回のスケジュールはこのようでした

- 01月31日 *朝、中部国際空港 出発
クアラルンプール 着
空港で乗り換えを待機
クアラルンプール発
南アフリカを経てアルゼンチンへ移動
- 02月01日 ブエノスアイレス空港 着
*夕食はタンゴショー鑑賞を兼ねて
(泊)ブエノスアイレス
- 02月02日 * 朝食後、市内観光を経て、
バラデロ農場を見学
*大型バス2台にてアンデスへ移動
途中でホテルの鑑賞をします
(泊)バス車中 約1,000kmを移動します
- 02月03日 *アンデス農場(アンデス移住地)
*昼食は現地の日系人の方々と共に
(泊)サンラファエル
- 02月04日 ブエノスアイレスへ空路移動
(泊)ブエノスアイレス
- 02月05日 *岐阜県人会の新年会に参加
(泊)ブエノスアイレス
- 02月06日 イグアスの滝へ空路移動
*午後、アルゼンチン側の滝を観光
- 02月07日 (泊)アルゼンチン:シェラトンホテル
*パラグアイの日系イグアス農協を訪問
*昼食は農協婦人部の皆さんの手作りです
*夕方、ブラジルへ移動
- 02月08日 (泊)ブラジル:カタラタス
*午前中、ブラジル側の滝を観光
*午後、イグアス空港出発
- 02月09日 *夜、ブエノスアイレス空港発、帰国の途に
- 02月10日 機中
*早朝、クアラルンプール 着
成田帰国グループは乗り換え、
名古屋帰国グループは市内で休息
- 02月11日 *深夜、クアラルンプール発
中部国際空港 着

旅のスナップ写真のご紹介



岐阜県人会の新年会は現地の方々約80名のご出席の中、楽しく歓談しました



新年会は日本人会館で開かれました



アンデス農場では米さんから説明を聞きました



イグアス農協では現地の日本語学校生徒による踊りを披露していただきました



パラグアイの大豆畑風景